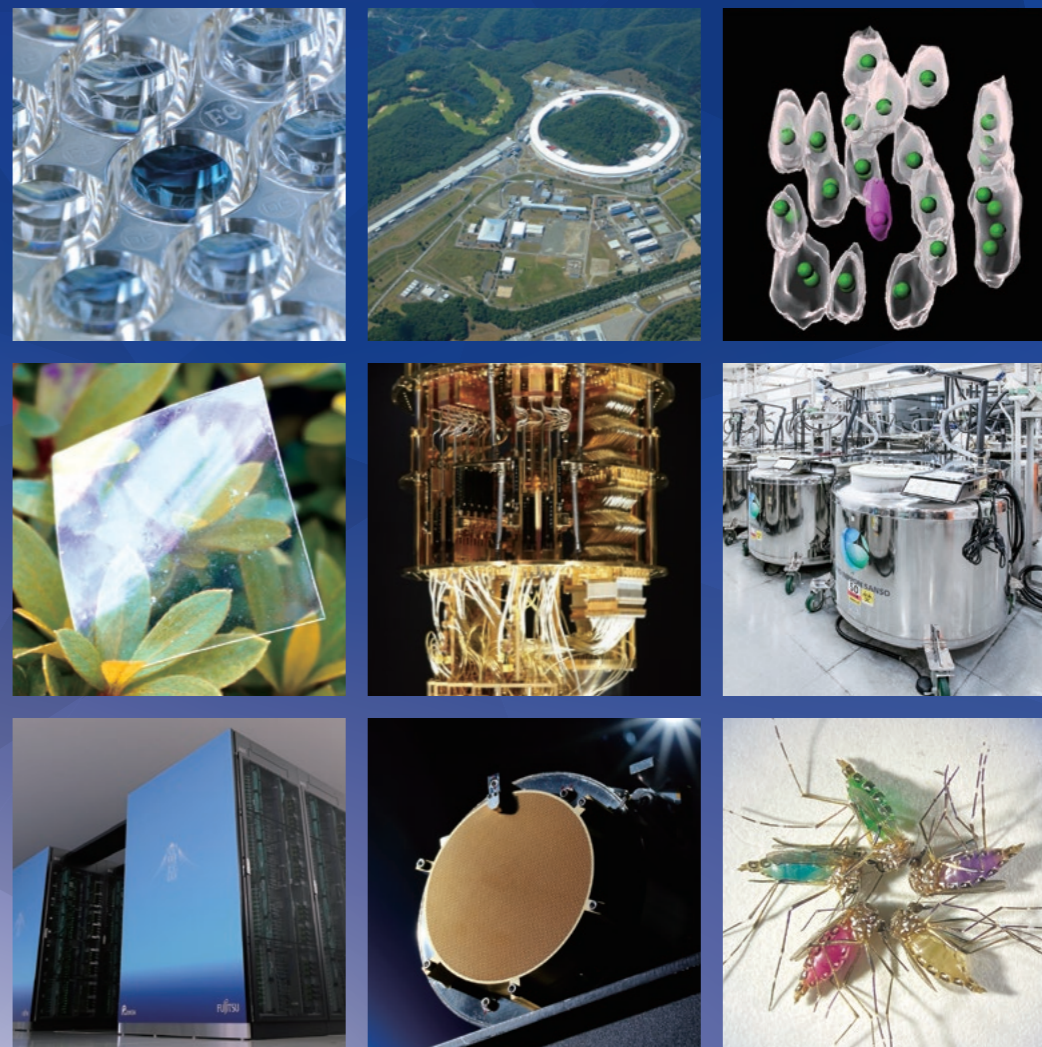


沿革

- 1917 ▶ 財団法人理化学研究所設立
- 1922 ▶ 研究室制度(主任研究員が裁量権を持って研究室を主宰する制度)が発足
- 1927 ▶ 理化学興業株式会社を設立
- 1937 ▶ 仁科芳雄、わが国初のサイクロトロンを作製
- 1948 ▶ 財団法人理化学研究所解散、株式会社科学研究所設立
- 1949 ▶ 湯川秀樹、ノーベル物理学賞受賞
- 1958 ▶ 株式会社科学研究所解散、特殊法人理化学研究所設立
- 1965 ▶ 朝永振一郎、ノーベル物理学賞受賞
- 1967 ▶ 大和研究所開所(埼玉県和光市)
- 1981 ▶ 微生物系統保存事業の開始
- 1984 ▶ 筑波研究学園都市に研究拠点を設置
- 1986 ▶ わが国で初めて任期制研究者を採用し、国際フロンティア研究システムを開設
- 1989 ▶ 基礎科学特別研究員制度発足
- 1990 ▶ 宮城県仙台市に研究拠点を設置
- 1992 ▶ 理研アドバイザー・カウンシル(RAC)を創設
- 1993 ▶ なごやサイエンスパークに研究拠点を設置(2024年 廃止)
- 1995 ▶ 英国ラザフォード・アップルトン研究所(RAL)にRAL支所を開設(2023年 廃止)
- 1996 ▶ 理研ベンチャー制度による第1号企業設立 ▶ ジュニア・リサーチ・アソシエイト(JRA)制度発足
- 1997 ▶ 播磨科学公園都市に研究拠点を設置、大型放射光施設「SPring-8」供用開始
▶ 米国ブルックヘブン国立研究所(BNL)に理研BNL研究センターを開設
- 2000 ▶ 神奈川県横浜市に研究拠点を設置
- 2002 ▶ 兵庫県神戸市に研究拠点を設置
- 2003 ▶ 独立行政法人理化学研究所設立 ▶ ヒトゲノム全解析の完了
- 2006 ▶ シンガポールにシンガポール連絡事務所開設
- 2007 ▶ RIビームファクトリー共用運転開始
- 2010 ▶ 中国に北京事務所開設
- 2011 ▶ 大阪府吹田市に研究拠点を設置(2025年 廃止)
- 2012 ▶ X線自由電子レーザー施設「SACLA」供用開始 ▶ スーパーコンピュータ「京」共用開始
- 2013 ▶ iPS細胞を用いた世界初の臨床研究を開始
- 2015 ▶ 国立研究開発法人理化学研究所に名称変更 ▶ 113番元素の命名権獲得
- 2016 ▶ 特定国立研究開発法人に移行 ▶ 新元素ニホニウム(Nh)の名称・記号が決定
- 2017 ▶ 東京都中央区に研究拠点を設置 ▶ 創立百周年
- 2018 ▶ 関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)に研究拠点を設置 ▶ ベルギーに欧州事務所を開設
- 2019 ▶ 株式会社理研鼎業を創設(2024年 株式会社理研イノベーションに名称変更)
- 2020 ▶ スーパーコンピュータ「富岳」、世界ランキングで4部門制覇
▶ 理研、理研鼎業(現 理研イノベーション)、株式会社JSOLからの出資で株式会社理研数理を設立
- 2021 ▶ 「富岳」共用開始
- 2023 ▶ 量子コンピュータ外部利用量子クラウドサービス開始、最先端研究プラットフォーム連携(TRIP)事業開始

RIKEN 2026



国立研究開発法人理化学研究所

〒351-0198 埼玉県和光市広沢2-1 TEL:048-462-1111 (代表、音声案内)

www.riken.jp

お問い合わせはウェブサイトのお問い合わせフォームをご利用ください。

RIKEN 2026 (2026年4月発行)



理化学研究所

ごあいさつ



世界は今、地球温暖化や環境破壊、経済格差の拡大、国際協調システムの行きづまりなど、地球規模の深刻な課題に直面しています。一方で、先端半導体技術、計算科学の進展、そして生成AIや量子計算といった革新的技術の登場により、デジタル革新が一層進み、人類社会の存立の基盤そのものを変貌させています。科学技術が人類社会を衰亡させてしまうのか、あるいはより良い成長へのパラダイムシフトをもたらすのか、人類は岐路に立っています。新たな科学と技術を生み出すことを使命とする私たち理化学研究所(理研)は、他人まかせの受け身ではなく、より良い未来を能動的に切り拓く原動力となることを目指します。

理研は、1917年の創立から108年目をむかえ、本年度より7年間の第5期中長期計画の期間に入りました。この7年間は、きわめて重要です。理研が生み出す価値の源泉は、研究者一人ひとりの自由な発想です。同時に、特定国立研究開発法人として理研は日本だけでなく世界の公共財として、未来の社会に向けて貢献していかなければなりません。理研は、「探求の欲び」と「社会に対する責任」を世界最高水準において妥協なく追求してまいります。そしてその輪を、国内外のアカデミア、産業界、政府へと広げます。

研究の最前線を的確にとらえ、世界をリードするために、理研の総合力を生かし迅速に対応できる運営体制を整えました。「物理学」「生命科学」「数理・計算・情報科学」「環境科学」「開拓科学」という5つの研究領域において、領域横断の研究活動を活性化します。

2022年から開始した「TRIP (Transformative Research Innovation Platform of RIKEN platforms)」構想は、既に理研全体に浸透しています。スーパーコンピュータ「富岳」による計算機科学、生成AIや量子コンピュータ実機などを駆使した本格的なデータ駆動型の研究が加速し、科学研究基盤モデル開発、基礎量子科学研究、創薬・医療技術、先端半導体科学のさまざまなプログラムが立ち上がり、革新的な成果が次々に上がっています。また、次世代計算基盤「富岳NEXT」や第4世代放射光施設「SPring-8-II」の整備にも着手しています。研究活動における環境負荷の低減にも責任をもって取り組み、研究設備の国内外の共用化による効率化を通じた二酸化炭素排出削減などを進めます。

科学研究の次世代人材育成の場として、「RIKEN Early Career Leaders Program (ECL制度)」の充実を図り、女性や外国人研究者の積極的な登用、大学や企業との人材交流を促進します。クロスアポイントメントや柔軟な研究者雇用制度の積極的な活用を通じて、日本全体の研究基盤の強化にも貢献してまいります。

未来ビジョンの達成には、科学が文化や国境を超えて社会に共感され、信頼されるものでなければなりません。理研は未来社会が人類にとって真に豊かなものとなるように、これからも真摯に研究に取り組み続けます。引き続き、みなさまのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

国立研究開発法人理化学研究所 理事長 **五神 真**

拠点

和光地区(埼玉県和光市)

TEL:050-3500-5344(和光事業部代表)
最先端研究プラットフォーム連携(TRIP)事業本部
統合データ・計算科学プログラム
科学研究基盤モデル開発プログラム
基礎量子科学研究プログラム
創薬・医療技術基盤プログラム
先端半導体科学プログラム
理研産業協創プログラム
バトンゾーン研究推進プログラム
開拓研究所
数理創造研究センター
計算科学研究センター
量子コンピュータ研究センター
情報統合本部
脳神経科学研究センター
環境資源科学研究センター
創発物性科学研究センター
光量子工学研究センター
仁科加速器科学研究センター
放射光科学研究センター
事務部門

仙台地区(宮城県仙台市)

TEL:050-3500-5347(仙台支援課代表)
光量子工学研究センター

筑波地区(茨城県つくば市)

TEL:029-836-9111(筑波事業部代表)
バイオリソース研究センター
環境資源科学研究センター

東京地区(東京都中央区)

TEL:050-3500-5348(東京支援課)
革新知能統合研究センター
数理創造研究センター
計算科学研究センター

横浜地区(神奈川県横浜市)

TEL:045-503-9111(横浜事業部代表、音声案内)
生命医科学研究センター
環境資源科学研究センター
創薬・医療技術基盤プログラム
バトンゾーン研究推進プログラム
開拓研究所
数理創造研究センター
計算科学研究センター

けいはんな地区(けいはんな学研都市)

TEL:050-3500-5354(けいはんな支援課)
バイオリソース研究センター
革新知能統合研究センター
情報統合本部

播磨地区(播磨科学公園都市)

TEL:050-3500-5411(播磨事業部代表)
放射光科学研究センター

神戸地区(兵庫県神戸市)

TEL:078-306-0111(神戸事業部代表)
生命機能科学研究センター
計算科学研究センター
統合データ・計算科学プログラム
科学研究基盤モデル開発プログラム
創薬・医療技術基盤プログラム
バトンゾーン研究推進プログラム
開拓研究所
数理創造研究センター

海外拠点

理研 BNL 研究センター (アメリカ・ニューヨーク、Brookhaven National Laboratory)	TEL: +1-631-344-8095
シンガポール事務所	TEL: +65-6478-9940
北京事務所	TEL: +86-(0)10-6590-9192
欧州事務所 (ベルギー・ブリュッセル)	TEL: +32-2-732-7277



組織紹介

TRIP事業

Transformative Research Innovation Platform of RIKEN platforms: TRIP事業。研究領域を超えて「つなぐ科学」を推進し、新たな学知の創成と人類社会の課題解決に貢献する。



川崎 雅司
本部長

統合データ・計算科学プログラム

計算可能領域の拡張、良質なデータの整備、それらを最大限活用するためのAI・数理による予測アルゴリズムの研究開発を進め、多様な研究分野の課題への先駆的な活用を推進します。

科学研究基盤モデル開発プログラム

大規模言語モデルなどを活用し、特定科学分野のデータを系統的に学習させた科学研究向け基盤モデル・AIエージェントを開発します。さらに基盤モデルと自動化実験・シミュレーションの融合による科学研究の革新を目指します。

基礎量子科学研究プログラム

量子論の基礎的理解を深める研究を中長期的な視点から展開し、基礎量子科学分野の世界的な研究拠点および頭脳循環ハブの形成、研究人材の育成を目指します。

創薬・医療技術基盤プログラム

優れた基礎研究の成果から革新的な医薬品の創出を目指すとともに、放射性医薬品やAI、量子コンピュータを活用したデータ駆動型創薬など、理研の最先端科学技術を基盤とする独創的な創薬研究を推進しています。

先端半導体科学プログラム

計算可能領域の拡張に伴い爆発的な増大が見込まれるエネルギー消費に対応するため、半導体デバイスの低消費電力化等に必要基礎研究を推進します。

理研産業協創プログラム

理研と企業がそれぞれ課題や技術シーズを持ち寄り、連携企画を創出し、本格的な共同研究や大型連携研究につなげていきます。

バトンゾーン研究推進プログラム

「挑戦から達成へ」を合言葉に、産業界との連携に取り組みます。

物理学領域

多様な研究者が集い、分野を越えた研究開発や議論を通じて、情報処理技術および高効率のエネルギー変換技術等を一層発展させ、Society5.0の実現などの社会課題の解決、新たな学術の創成につなげることを目指す。



十倉 好紀
領域総括

創発物性科学研究センター

物理学・化学・エレクトロニクスの3分野が連携し、エネルギー問題の解決に基盤的に資する創発物性の実現に向けた研究を行っています。

光量子工学研究センター

光の持つ観測、分析、情報能力を飛躍的に発展させるような光科学 (Photonics) を開拓し、さまざまな科学分野の新局面を切り開くような研究を推進します。

仁科加速器科学研究センター

原子核とそれを構成する核子の実態を究明し、究極の原子核モデルの描像を構築します。

放射光科学研究センター

放射光科学研究センター (RSC) 大型研究基盤施設 SPring-8 と SACLA の安定運転に責任をもちながら、現行の100倍となる輝度を持つ SPring-8-II の整備を進めます。最先端の光源を活かす利用技術開発や利用環境向上を行うことで施設の最先端性を維持します。

開拓科学領域

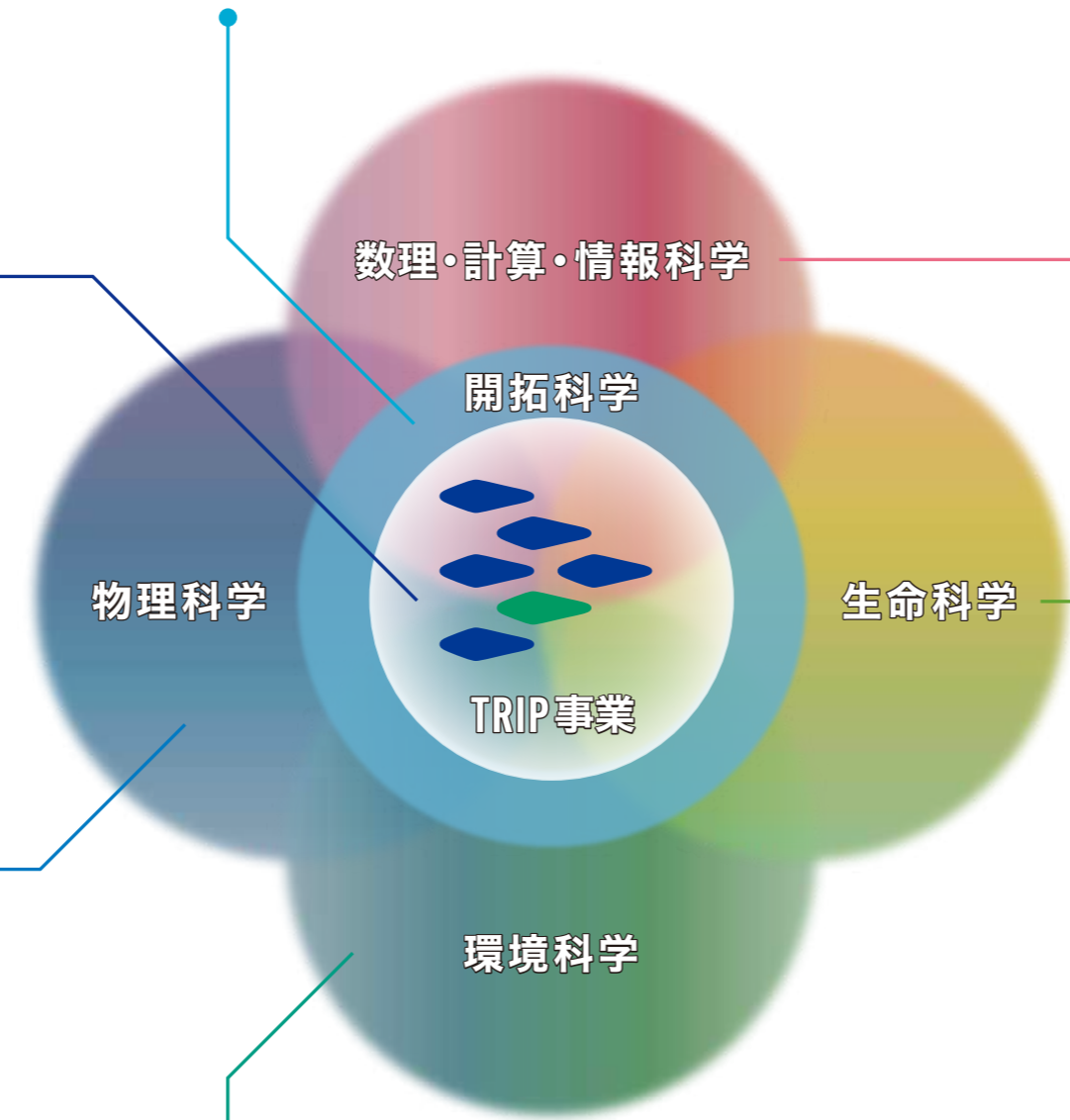
科学技術の飛躍的な進歩や新しい価値の創出に貢献。トップクラスの研究機関や研究者とのネットワーク構築や優秀な若手研究者の育成を通じて国際頭脳循環へ貢献する。



小谷 元子
領域総括

開拓研究所

未踏の研究分野の創成・開拓に取り組み、科学技術の飛躍的な進歩や新しい価値の創出に貢献すべく、基礎・応用に捉われず、挑戦的な研究開発に取り組みます。



数理・計算・情報科学

開拓科学

TRIP事業

物理学

生命科学

環境科学

環境科学領域

グローバル・ commons の維持および人と地球の健康の両立に向けて、生物資源と生産・物質循環・共生と環境に関する研究開発により持続可能な社会の構築を目指す。



齊藤 和季
領域総括

環境資源科学研究センター

地球システムという人類の共有財産 (グローバル・ commons) 維持への貢献とサステナブルな循環型社会の実現に向けた課題解決型研究で、地球と人がともに健康でいられる未来を、科学の力で切り拓きます。

(バイオリソース研究センター)

数理・計算・情報科学領域

各分野の研究者を有機的に結び付け、これからの科学技術振興と社会変革の中で必要となる計算基盤の構築と基礎数理を創成する。



初田 哲男
領域総括

数理創造研究センター

理論科学・数学・計算科学の研究者が、「数理」を軸とする手法を用いて、自然現象の原理の解明や、社会変革を伴うイノベーションの創出を図る、国際研究拠点です。

計算科学研究センター

スーパーコンピュータ「富岳」を運用。世界トップクラスの計算能力を幅広い研究分野で活用し、計算科学・計算機科学の発展に寄与する「計算の、計算による、計算のための科学」の研究開発を行っています。

量子コンピュータ研究センター

多様なアプローチの量子コンピュータの開発と性能向上に取り組み、社会課題解決に向けて計算可能領域の拡大を図り、次世代の量子コンピュータ技術を確立するための研究を推進しています。

革新知能統合研究センター

国際的な最先端AI研究拠点として、信頼できるAIの数理基盤、科学ドメインと融合したAI技術、実世界で身体性を備えた知能基盤の確立に挑戦します。

情報統合本部

理化学研究所第5期ICT戦略に基づき、理研の研究活動を支える情報基盤や情報環境の開発・構築・運用を戦略的かつ統合的に進めています。

生命科学領域

異なる階層・時間軸・種間の横断、ゲノムやエピゲノム、さらには環境要因を含めた複雑な生命メカニズム全体に至る、生命の本質と総体に迫る。



西田 栄介
領域総括

生命医科学研究センター

医学への斬新な貢献を目指し、ゲノム機能や生体がさまざまな刺激に対し応答するシステムに着目して、ヒト疾患の発症機序や治療法に関する最先端の研究を行います。

生命機能科学研究センター

ライフサイクルを通じた健康維持など少子・高齢社会の課題解決を見据えて、個体の発生・誕生から老化に至る多階層の生命現象を包括的に理解し、その進行を予測・制御する研究開発を進めます。

脳神経科学研究センター

人間らしく生きるための「こころ」の基盤である脳を研究する日本の中核拠点です。遺伝子から細胞、個体、社会システムを含む多階層にわたる脳と「こころ」のはたらきの基礎研究と革新的技術開発を進め、その成果を社会へ還元します。

バイオリソース研究センター

バイオリソースは幅広い分野の生命科学の開発研究に必要な不可欠な研究材料です。世界最高水準のバイオリソースの収集・保存・提供を行うとともに必要な研究開発を実施します。

概要

最新の研究成果から

生命機能科学研究センター 栄養応答研究チーム

蚊は腹八分目を知る



哺乳類の血液中に存在する「フィブリノペプチドA (FRA)」が、ネッタイシマカの吸血を停止させる作用を持つことを発見。ウイルスなどの病原体を媒介する蚊の根源的な行動である吸血の仕組みの理解や、人為的に吸血を阻害する手法の開発など新たな感染症対策への応用が期待。(五大紙、FNNニュースほか)



量子コンピュータ研究センター 光量子計算研究チーム

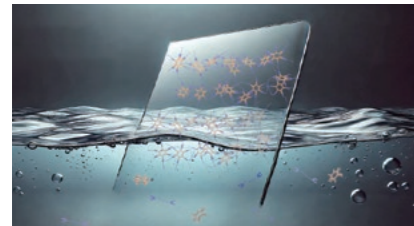
新方式の量子コンピュータを実現



世界に先駆けた汎用型光量子計算のためのプラットフォームとなる光方式による新型量子コンピュータの開発に成功。従来の量子コンピュータと比べて高速かつ大規模な量子計算が可能になると期待。(NHK、五大紙ほか)

創発物性科学研究センター 創発ソフトマター 機能研究グループ

海中で原料まで分解できる超分子プラスチック



海中などで容易に原料にまで分解し、生化学的に代謝される「超分子プラスチック」の開発に成功。プラスチックの代替材料としてマイクロプラスチックによる環境汚染の抑制に貢献すると期待。(NHK、五大紙ほか)

技術移転

特許料収入	473,217千円
国内特許出願	209件
海外特許出願	225件
国内保有特許	725件
海外保有特許	971件
年度末契約	333件

(2024年度)

- 2024年総論文数:2,891 ●2023年被引用数上位10%に入る論文の割合:14.5%
- 2023年被引用数上位1%に入る論文の割合:2.2%

※クラリベイト社の研究業績分析ツールInCitesを基に算出(2025年5月15日時点)
※ドキュメントタイプはArticle、Reviewに限定

施設

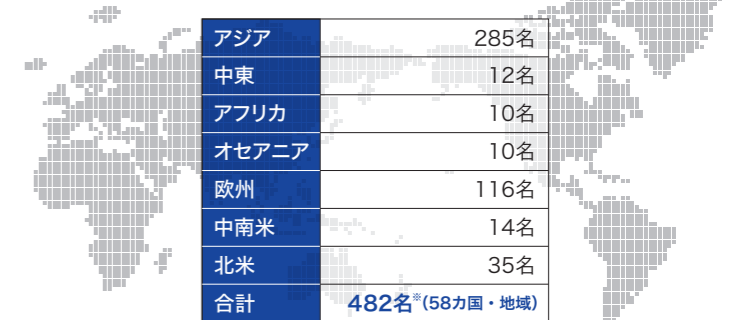


世界トップレベルの研究機関として、スーパーコンピュータ「富岳」(左写真)、大型放射光施設「SPring-8」とX線自由電子レーザー施設「SACLA」(中央写真)、そしてバイオリソースといった最先端の研究基盤(右写真は保存用液体窒素タンク)を着実に整備し、国内外の大学・研究機関などへ提供することで、わが国の優れた研究開発成果の創出・最大化にも貢献しています。

人員

常勤職員 合計 3,538名*	研究職	1,865名
	技術支援職	559名
	リサーチアドミニストレータ	102名
	アシスタント、事務職、その他	1,012名

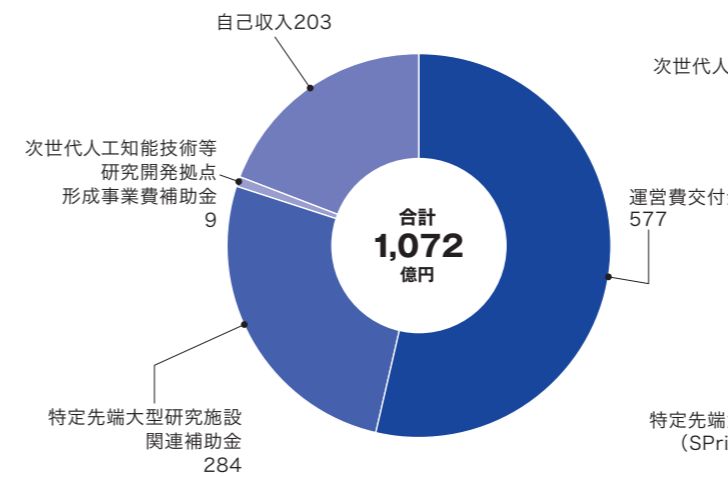
▼外国籍常勤研究職の出身地域別



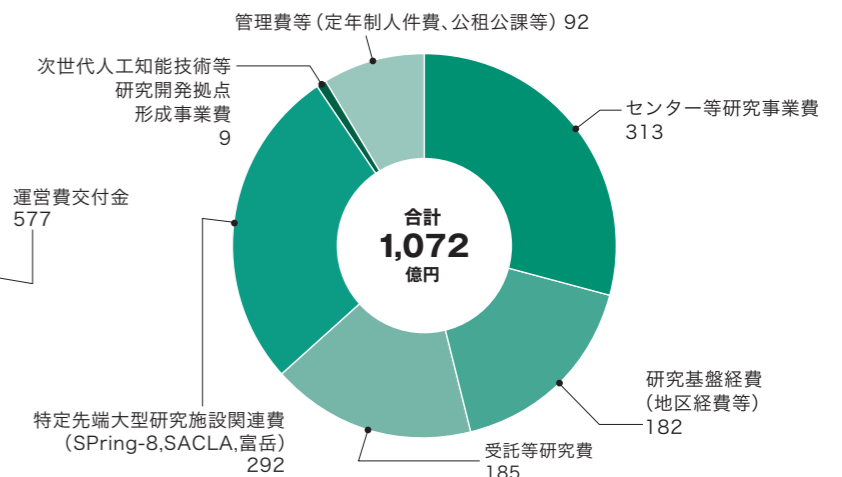
※他機関を本務先としつつ、理研において招聘職員として研究室を主宰する研究管理職を含む(2025年4月1日時点)

予算

2025年度 収入予算の内訳(当初予算)



2025年度 支出予算の内訳(当初予算)



※予算のデータは、四捨五入のため合計が合わないところがあります

若手研究者の登用・育成制度

理化学研究所では、若手研究者等にも研究活動の場を提供しています。学部学生、大学院生、ポスドク研究員、若手PIと、研究者のキャリアを育む一貫した支援を行っています。

